

七山病院

住所	泉南郡熊取町七山2丁目2番1号	電話	072-452-1231
病床数	658床	病棟数	11病棟

人権センターニュース No.79 より

オンブズマン活動報告

平成 18 年 7 月 12 日訪問

病院全体

病院側の説明 658床。救急の受け入れは月1~2件。病院機能評価機構の認定を受けている。敷地内に老人保健施設、近隣に福祉ホームB型、車で10分ほどのところにグループホームがある。地域からの認知症高齢者の入院が増えてきた。地域住民の理解を深めるために地域フェアなど開催している。

食事は昼食と夕食が選択メニュー。預かり金管理料1日50円、日用品購入業務委託料100円。売店で買物はカードを使い、購入したもの、金額が記載された明細を受け取る。院内で、歯科、眼科、皮膚科、内科の受診が可能。院外受診は、看護者同伴で1回1500円。

病棟の様子 診察室は詰所内に2室あった。デイルームにはその日の担当看護師や夜勤者名などが書かれ、「ご相談、ご質問お受けします」というタイトルで相談できる内容やPSWの名前が掲示されていた。ベッドごとにカーテンがある。病室のネームプレートはプライバシー保護の観点から書かれていなかった。

【入浴】患者の声「シャワー浴ができない」「(失禁した人以外)シャワーも使えない」(病院側の回答：全ての病棟で週2回の入浴以外にシャワー浴ができる体制になっていますが、一部の職員に認識不足がありました。)

本館(もみじ・さくら病棟)

2001年にオープンした本館は8㎡/人。4人部屋210円、2人部屋1050円、1人部屋2100円(それぞれ1日あたり)。

さくらB病棟(閉鎖・男女混合 精神療養病棟)

詰所での説明 60床。慢性化した患者が中心。療養病棟でありながら隔離室もあり、急性期的な対応も必要で、マンパワーが必要。年齢層は20代から80代。

15~17名はOTに参加。OTの休憩の際にはグランドに出ることができる。売店への買物は週に1回、患者3名に職員1名が同伴。レクはカラオケなどをする。医療保護の患者が大半なので同伴で散歩をするようにしている。

病棟の様子

【隔離室】木目調の床でクリーム色の壁。壁のクロスの材質は紙で、怪我をしないようにとの説明。扉の反対側に透明アクリル板の仕切りがあり、その奥に職員用通路、窓があった。通路にいる職員と話すために円形に複数の穴が開いていた。集音マイクとモニターカメラがあった。トイレは洋式で仕切りがあった。自動で水が出る手洗いがあった。通路に時計があった。他の2室は和式トイレ。

【電話】詰所のオープンカウンターと並びの廊下沿い。囲いなどない。患者や職員がよく通る場所。

【病室】4人部屋が中心で、個室もあった。病室の部屋番号は花の名前。鍵付きロッカーは利用料1日150円。

【その他】トイレにはナースコールがあった。洗濯物干場には男性用と女性用の洗濯物が混ざって干されていた。

患者の声「土日くらいは休みたい(外泊したい)」「優しく声をかけてくれる看護師さんもいるが、忙しい」複数の女性患者から「入浴の際に『はよしなさい』とせかす職員がいる」との声があり、病棟責任者に伝えた。

さくらC病棟(閉鎖・男女混合 精神療養病棟)

詰所での説明 60床。年齢層は50代から70代が中心。任意入院2名、医療保護入院57名。慢性期の患者が大半。単身で長期入院の方が多く、面会も少ない。

病棟の様子 さくらB病棟とほぼ同じ構造。

【隔離室】職員用通路側に隔離室の中から見えるようにカレンダー、時計が置かれ、造花が飾られていた。

患者の声「外出がしたい。看護師に言ったら『主治医に言うように』と言われ、主治医に言ったら『看護師に相談してみます』と言われ、その後医師から『やっぱりあきませんわ』と言われた。十分な説明もない」「朝食がパンだけなので、ご飯を食べたい」「日根野のジャスコなどに買物に行ったり、外のカラオケに行くことが楽しみ」

すばるC病棟(3階 閉鎖・女性 精神一般病棟)

女性の入院受け入れ病棟で、「すばるC病棟のご案内」という患者用、家族用それぞれのしおりがあった。

詰所での説明 1979年建築、2001年に改装し、その際に90床から60床に減らした。任意入院12名は全員が閉鎖処遇の同意書を提出していた。外出時は詰所を通過して外へ出るドアの横にある名札を裏返す。院内散歩ノートには、氏名・上着の色・下の服の色・靴の色・出た時の対応者・帰院時の対応者のサイン欄があった。院内散歩可が6名。看護師同伴で院内の売店へ出られるのが週2回。

病棟の様子 車椅子の患者はいなかった。エレベーターがない等の構造に適應できる患者の病棟と考えられる。

【隔離室】2年前に改装した隔離室2つは室内の全面、トイレの囲いも木目調。光が入って明るい。カメラで詰所からモニターしている。マイクで詰所と会話ができる。トイレはカメラの視野には入らないようにしている。トイレの水は自分で流すことができる。

【電話】顔の部分が隠れる仕切りが両側についている。詰所に声は聞こえない。

【病室】5人部屋。6.4㎡/人、それなりに広いと感じた。ベッド横に鍵付きロッカー(1日20円)と床頭台。

【トイレ】洋式トイレが2ヶ所。L字型の手すりあり。廊下とトイレの間に扉等はなく、中が見える。

患者の声「みんなで半年に1度、日根野まで、ショッピングに行けるのが楽しみ」「おやつのは買物は週1回売店で」「3年ここにいる。職員さんは口やかましい事も言わない。風呂は火曜、金曜の朝9時半から11時まで入れる」「希望は、トイレを板ばりにしてほしい。面会は月1回ある」「自分のこづかい台帳の明細は毎月手渡してくれる。新館は、部屋代を1日200円だったか取られるので無理」「診察は、いつもはゆっくり。治療計画書は、手渡してくれる時とそうでない時がある」「入院期間の目処について話したことはない。最初は知りたかった。もう7年たつ。自分自身でそういう気持ちは止めている」「退院しようと思う気持ちは、60才をまわるともう起こらない。50代までは、新聞の仕事欄を探していた。グループホームに住みたいと思った時もあった。が、利用者から『難しいわ』と言われたので、迷っている。デイケアに通ってグループホームに退院したい気持ちはあるけども」「主治医の診察は2日に1回。毎日してほしい」「退院したいと言ったら、『勝手に退院したら次は強制入院』と言われたので、『退院したい』と言いづらい。することがなく退屈」「外出したい。いつまで入院するのかわからない。主治医はよく話聞いてくれる」「テレカ、10円玉は持っている」「週に1回売店に行って、煙草10個とおやつ、飲み物を1週間分買う。自分のロッカーに入れて鍵を掛ける。盗まれない」「4人部屋。ここは差額ベッド代はないけど開放へ行ったら4人部屋でも差額ベッド代が要る。だからここがいい」「風呂は週2回。3回にしてほしい」

すばるB病棟 (2階 男性・閉鎖、精神一般病棟)

詰所での説明 男性の入院病棟。平均年齢 50 代。医療保護入院 42 名。任意入院 14 名は全員閉鎖処遇の同意書を提出していた。院外へ単独外出可が 1 名、午前中と午後の 1 時間の院内散歩可は 3 名。他は同伴外出。

病棟の様子 すばるC病棟と同じ病棟構造。

【入院患者へのしおり】担当医師・看護師・ロッカー番号・病棟主任 2 名・ケースワーカー 1 名が記載してある。

患者の声 「診察は、週に 1~2 回、よく話をきいてもらえる。退院の話はまだ」「開放病棟に行きたいが、『なかなか空きが出ない』と言われている」「改善してほしい点は散歩に出られない事。医者は、『良くなったらな』だけ。前に無断離院したから難しい」「OT は、月~金 1 回 2 時間行ける。楽しい」「テレホンカードは自分持ち。かけやすい。毎月明細書はもらう。もみじC にいた時、部屋代が 1 日 200 円の差額ベッド代と、高かった」「風呂も食事もゆっくりできている」「家族は、遠くの県にいるから、面会はない。もうちょっと、窓が開いてくれたらいいのに。もうちょっと楽しいことができたらいいのに。1 日が長い。寝てばかりいるとしんどくなる。散歩に出たい」「病棟に乾燥機がない。干すところは病棟の外にあり鍵を開けてもらわなくてはならない。雨が降ると濡れてしまう」「この病院はきれいでよい」「看護師はよく話を聞いてくれる」「ごはんが少ないかな。味はまあまあ」「風呂が週 2 回で少ない」「薬は、食事が終わったら並んで、看護師が口に入れてくれる。仕方ない」「なかなか退院させてくれない。病院に預けているお金の計算が合わない。そういうことは病院に聞きにくい」「看護師同伴で OT に行く。院外へは出られない」

検討事項

【オンブズマンの受け入れについて】各班(オンブズマン 2 名)に対して 4 名ほどの病院管理職がずっとついてこられた。(病院側の回答：訪問時に管理職が付き添うことについては、約束事を予め決められておいたら良いのではないのでしょうか。当院では院長回診、また、管理職の巡回を定期的に行ない患者からの要望・訴えを聞くように努力しています。ですから管理職がいるから意見を出しにくいということは、ないように思います。また、全病棟及び外来には、意見箱を設置(略)しております。ご意見箱は毎週(略)回収し、人権擁護委員会で検討し回答書を作成し病棟掲示板等に掲示して(略)おります。)

【金銭管理】訪問した全ての病棟(閉鎖病棟)では、金銭は全員事務所管理だった。(病院側の回答：訪問した病棟は全て閉鎖病棟であり、病状、金銭管理能力、自己管理によるトラブル等の配慮で病院が金銭管理をしています。なお、小遣金がマイナス(赤字)の患者も必要なものは購入できる体制にあります。また、開放病棟においては、自己管理に向けて可能な範囲で取組んでおり、完全に自己管理を行っている患者も何名も居られます。(略))

【薬について】「薬剤師、ドクターが、『これは安定するお薬よ』と教えてくれるが、薬の名前は知らない。薬についての説明書も見ただことはない」との声があった。服薬の時には患者がデイルームへ取りに行くことになっていた。看護師、患者によると看護師が患者の手の上に薬を乗せる場合もあるようだが、看護師が患者の口に薬を入れるという服薬方法が多いようだった。病棟職員の説明「患者に部屋で飲むかと聞いたことがあるが、『コップを洗うためにまた洗面台に行くことになるから、動く距離が増えて面倒。ここでして』と言われた」(病院側の回答：ほとんどの病棟で服薬指導を実施し、担当薬剤師から処方内容、薬品名等の説明を行っています。また、医師、看護師もその都度効果や副作用等についての説明も行なっています。なお、服薬指導の対象でない患者にも求めがあれば、医師、薬剤師から適切に対

応しています。与薬については、閉鎖病棟においては「服薬確認」の援助のために一定の場所になっていますが、(略)現病状に応じてベッドサイドでの服薬援助も行っています。また、(略)1 日分、3 日分、1 週間分をお渡しし自身のロッカー内で自己管理している患者もいます(略)。

【隔離室について】すばる B、C 病棟の古い方の隔離室は詰所からは遠く、廊下からは 2 つの扉で隔られていた。2001 年に床の張り替え。天井から床までの鉄格子(白ペンキ)によって職員用通路が確保されていた。(病院側の説明:この通路があるから 1 人でも来られるし、格子越しに、患者といろいろ話ができる。)和式トイレで、トイレ周りに囲いはなく、水洗は外から。モニターカメラはカメラの角度のせいか、室内の状況は見にくかった。

さくら B、C 病棟の和式トイレの隔離室では、トイレの周りに囲いがなく、職員用通路からトイレを使う姿が丸見えになる。病院側によると「この和式トイレの隔離室は、不穏や興奮の度合いが高い患者が使うことを前提としてつくられた。(さくら B 病棟で見た)隔離室のような仕切りがあると、上に乗って飛び降りたりする危険性があるので仕切りをつけなかった。(現状の入室者は)認知症で夜間に他の患者を起こしに行ったり、他の患者の私物をさわるなどの行為がある場合や水をたくさん飲む患者が飲水管理のために入られることが多い」とのこと。

(病院側の回答:すばる B、C 病棟の古い方の隔離室については、トイレ周りの囲いが無い等のハード面での課題がありますが、トイレ使用の状況を配慮しながら、必ず声掛けをしてから訪室するなどソフト面での対応でプライバシーの保護に努めています。)

【隔離室のモニター】(すばる C 病棟)詰所のドアから、隔離室内のモニターが見えた。(病院側の回答:通常はモニター映像の詳細まで判らず、モニター設置場所もプライバシーを考慮して設置しています。)

【外出の機会】複数の患者から「外出をしたい」「院外外出するには家族同伴でなければ」との声があった。看護師同伴の散歩は実施されているとのことだったが、さらなる充実を検討していただきたい。

【退院の相談】「主治医、看護師はよく話を聞いてくれる」などの声がある一方で、「退院の相談をしたことがない」「退院の相談をしにくい」という声が各病棟で複数の患者からあった。長期入院の患者から「治療計画をみたことがない」との声もあった。(病院側の回答:長期入院の患者にお話する機会を持っていないわけではありません。診察するたびに治療計画を説明することは難しいですが、極力主治医を中心にチーム全体で治療計画については、お話させて頂いています。また、退院についての相談も主治医、看護師、PSW 等が個々にお話や相談をお受けしております。)

行政への要請 院長が障害者自立支援法について「精神障害の特性を反映した施策で社会復帰を進めようという気があるのだろうか」と問題意識を話して下さった。長期入院患者の退院後の生活を支える社会資源が不足していることについては、行政施策のより一層の拡充が必要であること改めて指摘しておきたい。

人権センターが情報公開請求で入手した

H18 大阪府精神保健福祉関係資料より (七山病院分)

637 名の入院者のうち統合失調症群が 369 名(58%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 167 名(26%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が 50 名(8%)、気分障害が 33 名(5%)。入院形態は任意入院 209 名(33%)、医療保護入院 425 名(67%)。在院期間は 1 年未満が 210 名(33%)、1 年以上 5 年未満が 219 名(34%)、5 年以上 10 年未満が 83 名(13%)、10 年以上 20 年未満が 60 名(9%)、20 年以上が 65 名(10%)。

(H18.6.30 時点のデータ)